

仕事を知り将来の視野を広げる

受け入れて未来の担い手に期待

ひがまつインターンシップ「独歩」

ひがまつインターンシップ「独歩(DOOPO)」は、本市で育つ子どもたちが、インターンシップ(お仕事体験)として地域の仕事や活動に携わることで、仕事や企業、社会への理解を深めながら職業観や郷土愛を養う取り組みです。対象は、働き手が市内の小学6年生～中学3年生、依頼者が地元の企業や団体、個人です。独歩によって、子どもたちが実際にお仕事体験をすることで、職業や社会への理解、仕事のやりがい、自分のよさを知り、将来の目標や進路を考える機会を得て、主体性が養われます。一方、団体、企業、個人も本市の未来を担う子どもたちの育成に携わることで、地域貢献・社会貢献につながり、将来の就業先の選択肢や一次産業の後継者など、人材育成・確保に結び付ききっかけが得られます。今回の特集では、受け入れ、働き手双方のインタビューで独歩の魅力を紹介します。

独歩受け入れ団体・企業

福祉や優しさの意味学ぶ

障害児デイケアセンター「こどもの広場」 支援課長 なかたあやこ 中田 絢子さん

児童発達支援施設の特性上、ボランティアなど外部の方が常に入らっしゃいますが、普段のボランティアよりも、ぐっと若い小学6年の女子児童3人が来てくれたことで、その若さから子どもたちがより身近に感じ、良い遊び相手として過ごせていました。なかには、「次はいつくるの?」と次回を期待する声もありました。女子児童の中には、同じ敷地内にある矢本西保育園の卒園児もいました。保育園にいる時から、こどもの広場の障害を持つ子どもたちとさまざまなことをやっていたので、私たちが仕事でどうしているのか興味があったと、体験メニューが豊富にあった中で、私たちを選んでくれたそうです。この場所を身近に思ってくれていた子どもの存在を知れたのもうれしい出来事でした。

子どもに関わる仕事は、保育士や幼稚園の先生、学校の先生、小児科医など豊富にあり、児童発達支援センターにも、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、作業療法士、看護師が集まっています。子どもに関わる仕事がしたいという時に、センターがどんなところかわかってもらえたこと、さまざまな職業の人が子どもに関わることができると学んだことが役立つのではないのでしょうか。

参加した児童は、配慮が必要な子どもに、たくさんの大人が関わっていることを知りました。体験を通じて、何でもかんでも手伝うのではなく、できることはやってもらい、できないところをお手伝いするのが福祉や優しさであることを感覚的に理解できたと思います。

将来の職業選択に役立つ体験となり、私たちとしても今後の担い手を得る機会につながることを期待します。



子どもたちと遊ぶ6年生児童



外靴をはくのを優しくサポート



働くにあたり、しっかり目標を設定



職員の説明を受け、お礼状作りへ

「働くとは何か」真剣に

東松島みらいとし機構 代表理事 あつみゆうすけ 渥美 裕介さん

一般社団法人東松島みらいとし機構(HOPE)は、地域の復興まちづくりの促進や持続可能な環境未来都市構想推進に向けて活動する中間支援組織です。初回のインターンシップ(IS)では矢本第二中学校3年生の生徒3人を受け入れ、ふるさと納税の返礼品に同封する「お礼状」の原案を考える仕事をしてもらいました。

本来ISは、学生が企業とのマッチングを図ったり、企業側も意欲のある学生を発掘する活動です。ISを冠する以上、中学生には「体験する」というレベルでなく、しっかり「働くとはどういうことか」を感じ、社会について真剣に学んでもらいたいと考えました。

生徒にはまず、ふるさと納税の仕組みを説明し、「どうすれば地域外の皆さんに、もっと東松島のことを知ってもらえるか」「どうPRするか」を考えてもらった上で、お礼状作りに励んでもらいました。たった1日の活動でしたが、生徒たちは魅力的な地場産品紹介を盛り込んだり、支援への感謝の思いをしたためたりと制作に没頭していました。3人も美術部所属とあり、イラストの上手さが際立っていたのが印象的です。また昼食を職員と一緒に囲み、コミュニケーションも図りました。最初は緊張した様子でしたが、原案が完成した後の表情は晴れやかで「来てよかった」と感想も話していました。

真剣にISに取り組みながら、その道の職業人から「働く意義」を学ぶことは非常に有意義で、生徒の愛郷心にもつながると考えます。1日でなく、3日間とか、1週間とか長い期間で実施できれば、より実りの多い取り組みになるのではないかなと期待しています。

次代を担う子どもたちのために、今後もISに協力していきます。



●元気なあいさつで来場者をお出迎え



●解説員の説明をじっくり聞く2人

サービス提供側の心構え感じて

東松島観光物産公社 震災復興伝承館 解説員 坂元良徳さん さかもとよしかつ

東松島観光物産公社は今年4月、市観光物産協会と奥松島公社が統合して発足した団体で、より広域に対応した観光物産振興を目指しています。旧野蒜駅にある震災復興伝承館や復興再生多目的施設「あおみな」などの施設運営も業務の一つです。今回のインターンシップでは、鳴瀬未来中学校2年生の生徒2人を受け入れ、伝承館のスタッフとして半日働いてもらいました。伝承館では、さまざまな資料・展示物を通して地域内外から足を運んだ皆さんに東日本大震災の記憶と記録を伝えるとともに、市内の観光物産品なども販売して地域の魅力を広めています。

インターン生の2人は、夏休み期間中の1日を活用して参加してくれました。当日は施設の内容や解説員の業務説明などを行った上で、実際に来場した皆さんへのあいさつや物産品の品出しなどを体験してもらいました。実際にどれぐらいの施設見学予約が入っているのか、どんな名産品が置いてあるのかなどのデータもパソコンのグラフで見てもらいながら仕事に対するイメージも膨らませました。

また「どんな展示物があれば、より来場者の興味関心を集めることができるか」という課題についても考えてもらい、「子どもが見ても分かりやすい展示物・チラシを増やせばいいのでは」などの意見をもらいました。これを参考にして、今後、展示の拡充につなげたいと考えています。

約3時間という短い時間でしたが、サービスを「提供する側」の心構えなどを少しでも感じてもらえたならうれしいです。今後も機会があればインターン生の受け入れを行っていきたいと思います。

「憧れのレジ打ち」堪能 将来の夢実現へ知見蓄え

学校から配布されたチラシをきっかけに、「独歩」に申し込みました。保育所体験などたくさんの仕事がありましたが、小さい頃からお店の手伝いが好きで、「もしかしたらレジ打ちができるかも」と、宮戸のあおみなでお土産販売のお仕事を選びました。

お客さんが持ってくる商品のバーコードを読み込み、値段を伝えて、お金を払ってもらい、おつりを渡す一連の流れが体験できました。レジのおもちゃを持っていて、昔から遊ん

でいたので、本物を操作できて楽しかったです。

あおみなには、いろんな味のアイスやブルーインパルスのパッケージの商品など、豊富なお土産があって、驚きました。お店以外にも、遊覧船に乗って嵯峨渓を巡りました。私は途中で船酔いしてしまいましたが、話には聞いていて実際には見たことなかった岩などを見ることができました。

今回参加して、将来バイトをする時は、絶対レジ打ちをしたいと思

いました。参加後、スーパーに行ってもレジを打つ仕事が気になっています。中学校3年生まで独歩は参加できるので、中学校に上がってもレジ打ちのメニューに申し込みたいです。

私は将来漫画家になるのが夢です。レジ打ちとは関係なくても、物語を描く上で、例えばお店でのお客さん目線だけでなく、お店側の目線も知ることができました。働く人の気持ちや大変さも知ることができたので、夢の実現に役立てられればと思います。

独歩に参加



sasaki marina

大曲小学校6年生
佐々木麻里那さん

求人募集

東松島市子どもハローワーク ひがまつインターンシップ「独歩(DOPPO)」

市教育委員会では、趣旨に賛同し児童生徒を受け入れてくださる企業・団体を募集しています。

- 受入対象 東松島市立の小学6年生～中学3年生
- 受入日 学校が休みの土・日曜日または祝日、長期休業期間(夏休み、冬休み、春休み)

※複数日の設定も大歓迎です。ご相談ください。

■受入の流れ

- ①受け入れ1か月前までに所定の求人票を提出願います。
- ②教育委員会から各校へ周知し、参加希望者を募集します。
- ③参加希望者がいれば、教育委員会が調整して参加を決定します。

※各業種の通常の仕事のほか、イベントの手伝いなどの依頼も受け付けています。

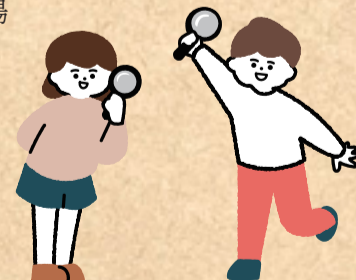
そのほか、詳しい内容や求人票提出については、担当まで問い合わせください。

■問 教育総務課教育指導係 ☎内線1253

独歩実績

これまでに求人をお願いした 11団体・企業の皆さま 協力ありがとうございます

- ・東松島みらいとし機構 (HOPE)
- ・障害児デイケアセンター こどもの広場
- ・はなぶさ幼稚園
- ・赤井南保育所
- ・赤井北保育所
- ・大塩保育所
- ・矢本東保育所
- ・野蒜保育所
- ・東松島観光物産公社 (宮戸地区復興再生多目的施設(あおみな)、震災復興伝承館)
- ・東松島市図書館
- ・バケラッタ



マッチングした児童生徒延べ人数 33人

※随時、ご協力いただける団体・企業を募集しています。